

令和7年(2025年)10月14日

保護者各位

札幌市立北九条小学校
校長 佐々木 修治

全国学力・学習状況調査の結果分析及び説明について

一雨ごとに秋の深まりを感じるころとなりましたが、皆様ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、令和7年4月17日(木)に小学校6年生と中学校3年生を対象に行われました全国学力・学習状況調査(質問紙調査は4月24日実施)について、全国の調査結果と北海道の調査結果の概要を基にして、本校の調査結果について分析をいたしましたのでお知らせいたします。

なお、本調査結果は、学力の中の特定の一部分に基づくものであり、全ての学力を網羅し評定を示すものではありません。また、本校で対象となりました6年生の保護者の皆様には、既に個人票を配付しております。

1. 結果分析について

(1) 分析の方法について

①国語、算数、理科について、それぞれ領域ごとに自校の平均正答率を全国平均と比較する。

②比較に当たっては、全国平均との差を下記の「比較値」を用いて表記する。

「比較値」	・+3.1ポイント以上	⇒	『上回っている』
	・+3.0ポイントの範囲内	⇒	『ほぼ同程度であるが、やや上回っている』
	・全国平均と同じ	⇒	『ほぼ同程度である』
	・-3.0ポイントの範囲内	⇒	『ほぼ同程度であるが、やや下回っている』
	・-3.1ポイント以下	⇒	『下回っている』

③その他

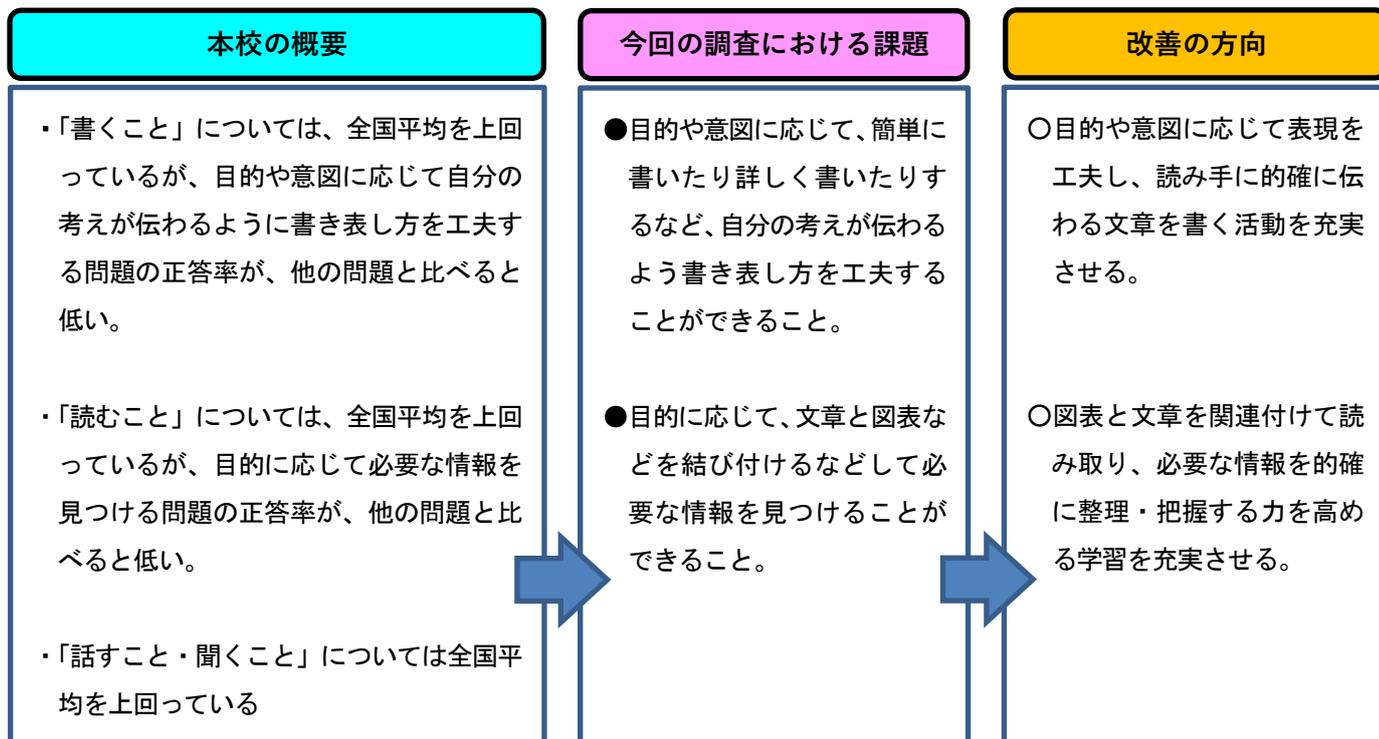
・特徴的な傾向について分析する。

(2) 「課題」及び「改善の方向」の作成

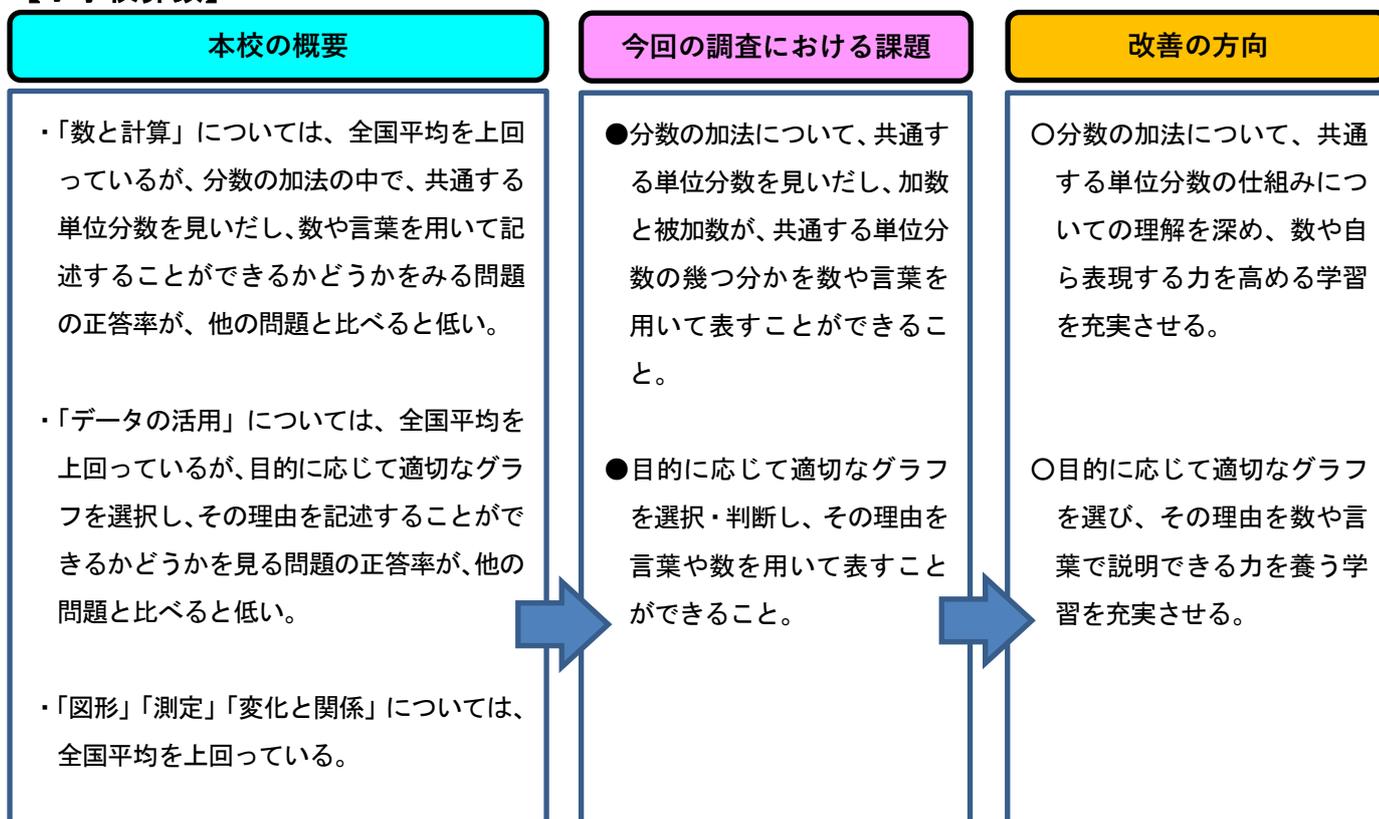
「課題」は小学校6年生のみの課題としてではなく、学校全体の課題として捉え、今後、全学年を通じて改善していくものとする。「改善の方向」は、課題に対する具体的な解決策とする。

2. 児童生徒に対する教科に関する調査結果から

【小学校国語】



【小学校算数】



【小学校理科】

本校の概要

- ・「エネルギー」を柱とする領域については、全国平均を上回っているが、身の回りの金属について、電気を通すか、磁石に引き付けられるかを選択する問題の正答率が、他の問題と比べると低い。
- ・「生命」を柱とする領域については、全国平均を上回っているが、植物の種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだすことができるかどうかをみる問題の正答率が、他の問題と比べると低い。
- ・「粒子」「地球」を柱とする領域については、全国平均を上回っている。

今回の調査における課題

- 身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いていること。
- 植物の種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現することができること。

改善の方向

- 金属の性質について実験等の機会を通じて理解を深め、電気や磁石の性質の理解を深める学習を充実させる。
- 発芽の条件を実験等の通じて比較・考察する活動を通して、新たな問題を見だし表現する学習を充実させる。

3. 児童生徒に対する質問紙調査に関する調査結果から

成果が表れている点

- 「自分にはよいところがあると思いますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに、多くの子どもが肯定的な回答をしている。全国や北海道の実態と比較して上回っており、子どもの自己肯定感が高まっているといえる。
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の問いに、多くの子どもが肯定的な回答をしている。全国や北海道の平均値を上回っており、学校生活に対する期待感や安心感が表れているといえる。
- 「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の問いに、多くの子どもが肯定的な回答をしている。全国や北海道の平均値を上回っており、子どもが主体的に学習に取り組む態度の育ちが見える。
- 「あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成することができますか」の問いに、多くの子どもが肯定的な回答をしている。全国や北海道の平均値を上回っており、日常の授業での ICT 機器の活用・習熟が進んでいるといえる。

今回の調査における課題

- 「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」の問いに対して、肯定的な回答をした子どもが、全国や北海道の平均値と比べ、ほぼ同程度であるが、やや下回っている。
- 「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」の問いに対して、肯定的な回答をした子どもが、全国や北海道の平均値と比べ、ほぼ同程度であるが、やや下回っている。
- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の問いに対して、肯定的な回答をしている子どもが、全国や北海道の平均値と比べ、下回っている。

改善の方向

- 友達との話し合いや協働的な活動を通して多様な考えに触れ、自分の考えを深める学びを推進する。互いの意見を尊重し、協力して課題を解決する力を育む授業や日常の活動を大切にする。
- 授業で得た知識や技能を、日常生活や次の学習へとつなげて活用する学習を充実させる。学びの意味を実感できるように、体験的な活動や学習の振り返りを通して子どもの思いや考えを深めていく。
- 子どもが地域や社会の出来事に関心をもつ機会を積極的に設けていく。また地域の人々との交流や地域探検等の活動を通して、地域社会に目を向ける学習を充実させる。